

就業感謝のつどい



一体感が深まった 平成28年度就業感謝のつどい

11月18日12時30分 成城ホールにて開催

△福田浩二様へ
感謝状を贈呈



▼中島さんと、新舞踊



◆来賓のご挨拶と感謝状贈呈

保坂区長からは“区の総人口は約89万3千人、要介護者35,000人、認知症の方が21,500人(毎年千人ほど増加)います。これらの方が住み慣れた地域で暮らしていくには地域の温かいサポートが必要で、センターの皆さんの活動に期待しています”。坂巻東京しごと財団理事長からは“契約金額で都内有数の実績を上げている当センターは、地域貢献事業でも、支えあいサービス、あったかサロンと目覚ましい”とお褒めの言葉をいただきました。

続いて、長年除草の発注をいただいている福田昭和様、鈴木敏章様、河野聰一郎様へ、感謝状が贈呈されました。



◆会員体験談発表

「あったかサロン」運営に携わっている角屋千寿子理事の談。

“区内の60才以上の方を対象として26年5月開設したサロンは、9月末で利用者総数3千名、毎月百名が訪れます。同世代の仲間が集い和気あいあいの中で、生活の知恵・人として大切なこと等を教わる気がします。季節に応じ、七夕、クリスマス会等や、俳句、社交ダンス、健康体操、囲碁の講座等のイベントも行っています。

このような交流の輪が広がり、元気なシルバー世代が増えれば、区の発展に繋がるでしょう。当センターに入会し、就業、ボランティア活動等を通して多くの方や社会と繋がり、自分の居場所を見つけられたことに感謝しています”

斉藤眞紀子さんの「支えあいサービス」の活動体験談は、以下のとおり。

“誰でも歳を重ねると、住み慣れた地域で安心して暮らすには、どなたかの協力が必要になってきます。2年ほど前から、週1回一人暮らしの高齢者宅のお風呂掃除をしています。ほんの少しのお手伝いですが、お顔を見るとホッと、お小遣いも得られて楽しく続けています。



ちょっと顔を合わせるだけかもしれませんが発注者様の喜びになり、私も元気や生きがいを得ながら就業に繋がることが嬉しいです”

◆会員によるアトラクション

社交ダンス同好会メンバーの華麗なダンスに続き、飛び入り参加者も交じって大賑わいでした。

カラオケ同好会の「人生いろいろ」には手拍子がわき、会員作詞の「ボケない小唄」(お座敷小唄の替え歌)を一同で熱唱しました。

最後は、新舞踊(北島三郎のまつり)。喜多見組の中島正江さんによる勇ましい口上と日本舞踊を中心に、壇上には大勢の応援団が交じってセンターの旗を振り大熱演。会場全体が熱気を帯びて、場内の一体感は最高潮に達しました。

◆田辺一邑の講談「フジヤマのトビウオ」

登場した田辺さんは、小柄で美声の講談師。師匠の田辺一鶴が住んでいた江戸川区はシルバー人材センター設立第1号の地であり、センター創設の立役者「大河内一男東大校長」の父君は、講談・児童読物の作者・有名な速記者でもあり、講談本は速記を基に作成されていた等、センターとの繋がりや歴史を枕に講談が始まりました。



巧みな話術で笑いを誘いながら、古橋廣之進が清水市水泳大会で学童日本一になったのを皮切りに、数々の記録を打ち立て、国際水泳連盟復帰後、1949年の全米選手権に参加し世界新記録を樹立し「フジヤマのトビウオ」と呼ばれ、敗戦後の国民を奮い立たせた顛末を熱演されました。

皆様のご協力のおかげで、出席者は253名と会場内はほぼ満席状態になり、入口近くに設置した写真パネルもセンターPRの役割に寄与したようです。



▲展示パネル